

平成27年度 第2回総合教育会議  
岩見沢市総合教育会議会議録  
(平成27年11月6日)

○議事

(1) 岩見沢市教育大綱(案)について

○本会議に出席した者

市	長	松	野	哲
教	育	委	員	長
教	育	委	員	秋
教	育	委	員	大
教	育	長	舩	甚

企	画	財	政	部	長	飯	川	正	裕		
企	画	室	長	原	田	和	幸				
市	長	政	策	担	当	主	幹	中	川	雅	博

教	育	部	長	名	和	田	勉					
学	校	教	育	課	長	加	藤	信	浩			
学	校	教	育	課	総	務	係	長	武	田	弘	毅

○原田企画室長 皆様おはようございます。

まず、開会に先立ちまして、出欠のご報告を申し上げます。

本日、渡邊教育委員には所用のため欠席される旨のご連絡をいただいておりますので、ご報告申し上げます。

それではただいまより、平成27年度第2回岩見沢市総合教育会議を開会いたします。

初めに、松野市長よりご挨拶をお願いします。

○松野市長 皆様、おはようございます。

総合教育会議の2回目という事で、今日もまたいろいろと活発なご議論をさせていただきたい。今日は、教育大綱の案を基にしたお話と、それから、各委員の皆様からご提示のありました案件等について、十分にご議論いただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

ぜひ岩見沢市の教育を高めていく。それは質もそうですし量もそうですし、ソフトもハードも、そういったことを高めていく。それから、子ども達を取り巻く環境は、かなり変わってきていますので、そういった個別の課題にどう対応していくのか、そういった視点でご議論をしていただきたいと思います。今日は、ご出席をいただき、本当にありがとうございました。

○原田企画室長 はい、それではさっそく次第にしたがいまして、議事に入らせていただきます。

まず、議事の(1)でございますが、岩見沢市教育大綱(案)につきまして、事務局からご説明申し上げます。

○中川市長政策担当主幹 それでは、岩見沢教育大綱(案)ということでご説明をいたします。

まず全体の構成といたしましては、1 はじめに、2 基本方針、3 重点項目、4 施策体系一覧、5 が施策ということで、5つの部で構成されております。

まず1ページのI「はじめに」というところをご覧いただきたいと思います。

こちらでは、大綱策定の前段の説明といたしまして、大綱策定の背景となる人口減少、少子高齢化等の課題、市においては地方創生に向けて、「岩見沢市人口ビジョン」、「岩見沢市総合戦略」を策定しており、教育の分野におきましても総合戦略に沿った環境づくり、人材育成が必要であること。また、「教育はまちづくりである」という理念のもと、文化・芸術・スポーツのまちづくりの推進、子育て支援、子育て環境の更なる充実を図るなど、子どもの育成を社会全体でサポートできる体制の構築を図るために、この岩見沢市教育大綱を定めるということを示しております。

2 番の「大綱の位置づけ」というところでは、この大綱の策定の根拠となります、地方教育行政の組織及び運営に関する法律を示しまして、教育大綱は、総合教育会議で協議調整を行い、市長が策定するというものであるということを説明しております。

続きまして、2 ページに進みまして、3 番 「関連計画との整合性」。こちらでは市の最上位計画であります、「新岩見沢市総合計画」、それから現在策定中の「総合戦略」、関連計画であります「子ども・子育てプラン」、「社会教育中期計画」などとの整合性を保ちながら、施策を総合的、一体的に推進することとしております。

4 番の「大綱の期間」。こちらでは関連計画のそれぞれの計画期間を示しまして、教育大綱につきましては、新岩見沢市総合計画と同じく、平成 29 年度までの 3 年間の計画期間とすることとしております。

3 ページにまいりまして、Ⅱの「基本方針」といたしまして、「豊かな心とすこやかな体を育む教育・文化・芸術・スポーツのまちづくり ～笑顔で子育てできるまち～」という大綱の基本方針を示しております。

つづくⅢ番の「重点項目」では、7つの重点項目といたしまして、1 番、新しい時代に対応できる力の育成。2 豊かな人間性と健やかな体を育成する教育の推進。3 育ちと学びを支える教育環境の充実。4 子ども・子育て支援の推進。5 緑陵高等学校の教育の充実。6 学校給食の充実。7 社会教育の推進 という7つの重点項目を示しております。

次に4 ページにまいりまして、こちらはⅣ番の「施策体系一覧」ということで、7つの重点項目とそれぞれの重点項目を実現するための、29の施策の体系を一覧にして示しております。

次に5 ページ以降は、Ⅴ番の「施策」として、重点項目とそのための施策を示しております。

重点項目の1は、「新しい時代に対応できる力の育成」。そこで、「①確かな学力を育成する教育の推進」として、学力の向上、社会全体で子どもたちの学びを支援する取り組みを推進するとしております。

「②は高度情報化社会に適応した人材の育成」。

「③国際理解教育の推進」では、英語力の向上を図り、異文化理解、海外に自らを発信できる国際コミュニケーション能力の向上を目指すとしております。

「④教育大学との連携による教育活動の推進」では、学校での授業協力や、子どもたちの文化・スポーツ分野での育成で、教育大学との連携により、教育活動を推進するとして

おります。

重点項目の2「豊かな人間性と健やかな体を育成する教育の推進」では、「①自尊感情、自己肯定感の育成」で、すべての子どもが自分の良さ、大切な人間であると思える心を育成する。

「②礼節を重んじる教育の推進」では、我が国の文化の特徴を活かせるよう、学校教育での取り組みを通じて、秩序と規律ある態度を育成することとしております。

「③体力向上のための運動の習慣化の推進」では、健やかな体をつくるための新体力テストの活用、運動の習慣化を謳っております。

「④自らの判断で命を守ることができる力の育成」として、一人の人間として生きていくために、防災教育等の充実を図ることとしております。

次に6ページに移りまして、重点項目の3「育ちと学びを支える教育環境の充実」のための8つの施策といたしまして、「①いじめの未然防止、早期発見、早期対応、早期解消」。これを岩見沢市いじめ防止基本方針に基づいて、的確ないじめ対策を推進していくこととしております。

「②教育支援センターによる教育支援の充実」。子ども・子育て支援策としても、体制の充実化を図っております、心理や福祉、医療の専門家チームによる教育相談、登校支援を進めてまいります。

「③家庭環境等の要因により学習に困難を有する子どもたちへの学習支援」。社会問題化している子どもの貧困対策としての教育活動の充実、支援を行ってまいります。

「④奨学金制度の充実」。卒業後岩見沢市で就職した場合に返済を免除するなどの、人口減・定住対策に結びつくような奨学金制度の拡充を検討していくこととしております。

「⑤特別支援教育・療育体制の充実」。障がいのある子どもに対して、早期に発達支援ができる体制づくりを行い、一人ひとりの能力や可能性を伸ばす教育を推進することとしております。

「⑥教職員の資質向上」。

「⑦小中学校の適正配置」では、適正規模での学校教育や、児童生徒と保護者の希望に沿った中学校選択制度等により、子どもたちへの良好な教育環境の提供に努めることとしております。

「⑧学校設備・施設の整備、改修」。安全・安心な教育環境の確保のために、引き続き整備改修を行っていくこととしております。

重点項目の4、「子ども・子育て支援の推進」。こちらの4つの施策といたしまして、「①子ども・子育て支援の充実」。こちらでは、安全・安心・笑顔の3つの視点から事業を進め、子育て支援拠点を中心として、妊娠から出産、子育てへの切れ目ない支援体制と、幼児教育・保育事業の充実を確立していくこととしております。

7 ページに進みまして、「②子育て相談体制の充実」。子育ての不安や孤立の解消、心理面等からのサポート体制の充実を図ることとしております。

「③放課後児童クラブ等の充実」。こちらでは働く親のワーク・ライフ・バランスの実現に向けて、時間外保育や放課後児童クラブ等により、子育てを支援していくこととしております。

「④青少年健全育成の充実」。青少年が社会的に自立した生活が送れるよう、体験活動の推進や、有害環境対策を推進することとしております。

重点項目の5、「緑陵高等学校の教育の充実」では、市立高校であります緑陵高校で、「①地域社会の発展に貢献できる教育活動と人材育成」を目指し、「②活力と特色のある学校づくりの推進」、こちらを、生徒の学力、多様な興味・関心に応じた教育活動の充実を図ることによって、行うとしております。

次に重点項目の6、「学校給食の充実」では、「①安全安心で子どもたちに喜ばれる学校給食の提供」を、衛生管理の徹底と地元産食材を活用した献立の充実などで行い、「②家庭や学校と連携した食育の推進及び食物アレルギー対応」を家庭と学校、教育委員会が連携を図り、子どもたちの命を守ることを最優先に取り組むこととしております。

最後の8 ページの重点項目7、「社会教育の推進」では、「①生涯学習の充実」。市民が生きがいのある豊かな生活を送れるよう、生涯にわたり学習活動を続け、その成果を活かせる環境づくりを推進することとしております。

「②芸術文化・スポーツ活動の推進」では、文化団体、スポーツ団体や北海道教育大学岩見沢校と連携した取り組みを進めることなどで、芸術文化・スポーツ活動を推進し、市民にも、「岩見沢は芸術文化・スポーツのまちだ」という認識を持っていただけるよう努めることとしております。

「③障がい者スポーツ・アートの推進」では、障がい者にやさしく、誰もが芸術文化・スポーツを楽しめるまちづくりを推進し、パラリンピックの合宿誘致、障がい者アートの普及を図ることとしております。

「④歴史・文化財等の保存・活用と継承」。指定文化財や郷土芸能、鉄道や炭鉱に関連する産業文化遺産の保存・活用を図り、市民が郷土の歴史や文化に触れる機会を創出し、次世代への継承に努めることとしております。

「⑤図書館運営の充実」。地域の知の拠点として、広く資料などの収集、保存に努め、市民が必要とする知識や情報を提供し、乳幼児へのブックスタート事業から、児童生徒、学生、成人、高齢者まで、幅広い世代に対応した読書活動を推進することとしております。

以上で、ひととおりご説明いたしました。

よろしくお願ひいたします。

○原田企画室長 それでは、ただいま事務局より、岩見沢市教育大綱（案）の概略につきましてご説明を申し上げましたが、前回、第1回目の総合教育会議の会議の場で、お話をいただきましたとおり、本日につきましては、まず、教育委員の皆様から、いくつかのテーマをご提起をいただきまして、そのテーマに沿った意見交換を行わせていただきまして、その後、そのテーマ以外でもご質問・ご意見等の発言をいただきたいと思ひます。

その中から、今回の大綱（案）に反映させるものにつきましては、反映をさせてまいりたいと考えている次第でございます。

教育委員の皆様からのテーマのご提起につきましては、まず武蔵教育委員長様、秋山委員様、大橋委員様、この順番で考えてございます。

それでは、まず武蔵教育委員長様からお願ひしたいと存じます。

よろしくお願ひいたします。

○武蔵教育委員長 まず、具体的なことの前に、大綱自体についてですけれども、市長として、岩見沢市の教育をどういふ方向に進めていくのかという施策の方針を示すものということですので、市長が掲げているまちづくりの柱のひとつであります、安心して子育てができるまちづくり、それと、子どもたちに責任を持って育てていく岩見沢市、そういったものが、だいたい網羅されていて、具体的施策については、現実的に今、教育委員会としても進めている部分だと思ひますし、またこれからもステップアップしていかなければならない項目だと思っておりますので、そういう方向で最終的にはまとめていただければいいなと思ひますけれども、それで具体的なことについてということで、私の方からは、一つ目として小中学校の適正配置の問題というか、これに対する考え方ということで、ちょっとベクトルを合わせなければならぬかなということ、お話をさせていただきたいと思ひます。

まず、教育委員会としては、学校通学区域の審議会で答申をいただきまして、それぞれ適正な学校規模というものを提示していただいておりますけれども、その中でも、それだけではない、地域事情に十分配慮して、考えていかなければならないということが出されています。

現時点でも、美流渡小・中学校の統廃合の問題、そういう方針で動いておりますので、具体的な動きは出てきている訳ですけれども、適正配置の考え方としてですね、まず今、委員長ではなくて、一委員の個人としての意見として言わせてもらいますけれども、教育長が言っていました、財政的な理由による統廃合は考えたくないという発言をしていたかと思ひます。非公式の場面だったと思ひます。それで、あくまでも学校教育で何をするのかという部分で、基礎学力、生活指導、一番大きいのは集団生活の部分かなというふうに思ひます。今も学校視察をさせていただいておりますけれども、やはり地域によっては、9

年間クラス替えのない学校もある。これについては、仲良く9年間過ごせれば良いですけども、何かトラブルがあった時には、これは大変なことになるので、そうならないような体制は敷く必要はありますけれども、そういった規模的な課題はあろうかと思えます。それと、やはり少人数になってきますと、学校の教職員の数が限定されるということで、その部分が一番子どもたちにとっては問題かなと考えています。小学校の場合はいろいろフォローもできますけれども、中学になると教科が専門性を帯びてくるので、そうなるかなと考えています。

その上で今、人口減少・少子化ということがありますし、市としてもそれに対する対策をいろいろ今考えて、行動している。そうした中で、岩見沢のまちづくりを通して関わっていることで、地域的な、どういう地域にしていくかという、それぞれの地域の未来を見据えた配置というのが必要になってくるのかなというふうに思っています。ですから、学校の場所の配置についても、将来構想を見た中で、考えていかなければならないのかなと考えています。

それと、さっき言ったように、本当に地域の、学校がなくなる地域がどうなるのか、美流渡に対しては、逆にこれからいろいろ説明を丁寧にしていくということで、子育てに支障がないように、しっかりと理解を深めていかなければならない。

もし他の地域でもそういうことを考えていくのであれば、あくまでも地域の今の人たちと、未来の人たち、全てを考え合わせて、お互いが理解し合った上で進めていかなければならないのかなと思っています。一応、一点目は小中学校の適正配置ということで。

○松野市長 自分はですね、岩見沢市の現状の学校数というのは、人口に比してやはり多いという認識を実は持っているんです。ただ、これまでの経過もあるので、学校施設については順次、改修作業を進めてきているので、現時点で目途が立っていないのが、中央小学校1校のみということなんですけれども、そういった意味では、ある程度、小規模校で改修を終えているという現実があるので、例えば、岩見沢小学校もそうですけれども、1学年2クラスの6学年の小学校として改築作業を終えているという状況があるので、いろいろ過去に検討する時期もあつたのではないのかなという思いはありますけれども、現状の中で、子ども達の教育をしっかりと充実していくための方策をやっぱり一番に考えたいなというふうに思っています。

それぞれの地域の思いはあるのも事実ですし、学校がないに関わらず、地域づくりはしていかなければならない話ですので、そこと子ども達の教育というのを、どういうふうにリンクさせるのか、むしろお互いにメリットとデメリットが、確かにいろいろ出てくるんですけれども、どれだけメリットをつくって提供できるのかという観点で考えなければならぬという気がします。

ですから、財政面だけでということだけでは考えませんが、いろいろとデメリットを解決する手段もないわけではないので、とは思ってはいます。ただ、あまり小規模す

ざる、答申でも出ていますけれども、一定の規模より規模が小さくなると、あまりプラスのばねが効かなくなってくる。

それは教える側も学ぶ側もそうですけれども、それよりも子どもたちが、これから自分の人生に向かって大きく羽ばたいていく大事な時期ですから、そのことによって何が必要なのかという観点が必要だろうなというふうに思います。

ご存知のように人口は減る訳ですから、いま、長期ビジョンの中でいろいろと議論している中で、試算としては7つ出していて、その7つの内のどれを長期ビジョンとして確定していくのかという作業です。

いずれにしても、人口が増えるという状況ではないので、そういった意味では、そのことで、岩見沢市内全体のあるべき教育の姿と、それから学校配置というのは常に念頭に置いて、教育委員会でもご検討いただきたいなと思います。

○舛甚教育長 教育委員会としましては、子どもの教育環境を最優先に考えて、これから未来に生きていく子ども達に、やっぱり大きく羽ばたいてもらうためには、それなりの教育環境を子ども達に提供してあげて、そして子ども達がそこで学んで、大きく羽ばたいてほしいなというふうに思っています。

美流渡地区でよく言われたのが、地域振興と学校が無くなるのは、逆行するんじゃないかとありましたけれども、地域振興は大事ですし、これからしていかなければならないことなんですけれども、でも、これから未来に生きていく子ども達のためには、やはり教育としては、より良い教育環境の中で、子ども達を学ばせてあげたい。そして子ども達は地域にまた戻って来ますし、土日も地域で過ごしますから、その中で、地域で、また子ども達も育ってほしいなと、こういうふうなことで、これから通学区域審議会の答申にありましたように、さまざまな困難がありますけれども、地域としっかり話し合いをしながら、子どものために教育環境を整備していきたいなと考えております。

○松野市長 私もまったく同感なんです。

かつてよく言われたのが、小学校区が、だいたいの行政の、例えば福祉分野での一つの塊という考え方があったんですけれども、それは人口が増えていく、もしくは維持している段階なので、人口が減っていく段階での考え方ではないので、学校があるなしに関わらず、やっぱり地域の発展、あるいは地域の充実というのは図っていかなければならないので、そこをしっかりとバランス良く考えていくということが必要だなということです。

それでも岩見沢市は、かなりしぶとく、小規模校でも維持している方だと思いますけどもね。むしろ恐らく、本州の都会というか、そういったところだともう、バタバタ切った張ったをやるぐらいの状況、そういうふうに取りられかねないような状況であるんですけれども。それでも、かなり地域のことを考えながら、統廃合についても考えていく必要があると思います。



○大橋委員 私も今、その問題でなんですが、それぞれの地域の皆さんは、その地域で、学校があるという中で、文化活動・イベントをやってきて、地域の方はそれをずっと描いているだけに、学校がなくなるというのは非常に心配だと思うんですけども、先ほど来、教育長が話されたように、これから育ちゆく子ども達に、いかにいい教育を施すか、そこに重点を置いて考えていく必要があるかなど。地域の方々は非常に心配されている、今まで積み重ねてきた地域活動、文化活動、それは学校が無くても、こういう工夫をすれば、継続できるよという、そういうどちらの面も協議の中で考えてあげると、安心されるのかなというように思いで、やはりこれから5年先、10年先、子ども達が力強く羽ばたくために、良い教育を施していくということが、私ども日頃、教育委員会の会議の中で、議論してきた中心なんですね、私もそのように思っております。

○武蔵教育委員長 本当に、子ども達にとって、何が、どういう姿が良いのかというのがこの課題の重点なのかなと思っております。

もう1点ですけれども、国際理解教育の推進という部分になりますけれども、小学校も英語が教科として導入されるような方向に動いていますが、岩見沢のポカテロ市との姉妹都市交流ということで、いま現在もポカテロの訪問団の方が来られた時には、学校の方にも何校か訪問されて、子ども達と接点を持ってもらったり、ホームステイの場面でもいろいろあると思います。ぜひ今後とも、こういう姉妹都市交流の方を計画して、多くの子ども達にできるだけ多い機会があればいいなというふうに考えています。

それから、ALTの配置も非常に大人数ですよ、市の規模にしては。これは、市長も当時頑張っていたいただいて、つけていただいています。都市教連の中で、他のまちの人たちと話をした時にも、予算的な部分でも岩見沢は非常に高額の予算をつけていただいて、同規模のまちでも、せいぜいいても5、6人というようなところが多いようです。これも結局は、学校数のことと絡んできちゃうんですけども、今の体制でも、かなり充実したALTの活用ができていますと思っておりますが、これについても引き続き、続けていくべきなんだろうというふうに考えています。

○松野市長 国際理解教育はやっぱり必要だと思います。今までもALTの配置も含めて取り組んできましたが、今後はALTだけではなくて、そのALTと連携して、十分連携をして、さらに充実できるような教員の質の向上というのにも必要になってくるのではないかなと。

姉妹都市も、今回自分も団員の一人としてポカテロに行って、あちらの市長さんともお話ししましたがけれども、やっぱりお互いの善意が、こういう交流の実績を作っている。お互いにこれをもっと進化させよう、プロGRESSさせよう、進化させよう、そのために努力していこうというようなことは、二人で話をしてきましたけれども。

もうポカテロでは、再来年の派遣メンバーまで決まっています。2年ぐらい前までに決めて、それに向かって子ども達がアルバイトをして、自分でお金を貯めて、市では助成しないので、そして来られるというシステムです。向こうは姉妹都市交流委員会が主体、こちらは、どちらかという市が主体という違いはあるにせよ、思いは同じなので、しっかり継続していくことが、子ども達のプラスになると思います。

○武蔵教育委員長 はい、ありがとうございました。

○原田企画室長 では、続きまして、秋山委員お願いいたします。

○秋山委員 私の方から1点。岩見沢市には、教育大学が、いまは残念ながら普通教科というのはありませんけれども、専攻科の課程の中で、現在も学校と教育大学との繋がりというのは、地域実践プログラムや支援プログラムという形の中で、スポーツだとか、様々な部分で、コンタクトを取っているのがあるんですけども、その部分で、いろんな予算的な部分、時間的な部分もあるんでしょうけれども、それももう少し充実した中でやっていくと、もっと子ども達にそういった、特に今はスポーツ、運動する子ども達がだんだん減ってきて、学校も生徒も減ってきて、なかなかそういう同じクラブ活動とかね、指導者もなかなか大変になってきているという現実の中では、良い交流ができていないのかなというふうに思っております。

学生という形の中では、やっぱり限られた部分はありますけれども、これをもっと充実した中で、進めることができれば有難いなというふうに思っております。

そういう、簡単ですけれども、大綱の中で、そういう大学との連携という部分が、触れられていますので、これが実際、実践の中でメニューとして出てくれば良いのかなというふうに考えています。

○松野市長 秋山委員のおっしゃるとおり、教育大学との連携は、学校教育の分野の連携もさることながら、まちづくりとしても連携が重要だという認識で、総合戦略の方も策定作業を行っているので、より拡充をしていきたい。

それは岩見沢市だけが、こうプロポーズしている訳ではなくて、教育大学岩見沢校サイドとしても、より連携を深めていきたいということで取り組んでいますし、ここ最近は、いろんなことで、かなりそれぞれの窓口が、チャンネル同士がきちっといろいろ議論しながら、取り組めてきていますので、そういったことを手掛かりとして、と言いますかね、より充実させていきたい。

例えば、一例ですけれども、パラリンピックの誘致も、元々そうなんですけれども、教育大学の中で、今度は「単位」を出して、パラリンピック概論というような講座も開いていただけるような準備も進めていますので、より学校教育現場プラスまちづくり現場との連携とか、やはり総合戦略の中では、さらにそれに加えて、その教育大学生の方が、岩見

沢市内で何かビジネスをと、そういったことまでできないかとか、さらに岩見沢に住んでもらうために、どういうことが出来るかということも含めてやっているの、より充実させていきたいというふうに思っていますし、この大綱の中でもそういうことを踏まえて記述している。

○武蔵教育委員長 教育大学も今ね、とりあえず存続できていますけれども、存在感を、常に突きつけられている問題です。

○松野市長 独立大学法人の中で、「世界と戦う大学」、それからその「何かに特化した大学」、あとは「地域と連携する大学」とか、そういうようなことで、それぞれの実績が、その交付金に現れるというか。そういった意味では、芸術・スポーツ・文化に特化した岩見沢のというのは、それはとても他の地域から見ても、魅力的な大学というふうに位置づけられているんじゃないかなというふうに思います。

○原田企画室長 いかがでございましょうか。このテーマにつきましては、終えさせていただきます。

次に、大橋委員お願いいたします。

○大橋委員 私の方から、施策の中の重点項目3について、提起したいと思いますが、冒頭、市長さんの挨拶の中でも、岩見沢市の教育に力を入れていくということで、ソフト面・ハード面、総合的に幅広く施策を推進する必要があるということをおっしゃられていましたので、そのとお受け止めているところですが、それぞれの施策について、現在進行しているものばかりなんです、6ページの重点項目3の中で、特に今お話し申し上げたいのは、「家庭環境等の要因により、学習に困難を有する子どもたちへの学習支援」ということで、保護者の経済的理由ですとか労働環境等で、子どもが学ぶ意欲があっても、なかなかこう経済的理由等々で、塾にはなかなか行けないという子ども達も、岩見沢市内には、いるという現状があります。

それからまた、進学したくても思いどおりにならない、何かそういった面で、手を差し伸べられないかということで、現在、教育委員会の方でもそのことを考えて、地域の人材を活用する中で、また、学校教育経験者等で、いまOBとなっておられる方の力をいただきながら取り組んでいるところなんですけれど、一層これを充実させる方向を、ぜひ重点的にお考えいただければなというふうに思います。

今ひとつは、これは予算的な措置にも関わってくるんですけども、奨学金制度の充実について、現在もされておりますけれども、一層こう拡充を図っていくことが必要でないかなと、大事でないかなというふうに思います。

具体的には、対象者の拡大ですとかいろいろ、将来的に岩見沢に定住して、岩見沢で就職して働いて、地域の振興に力を注ぐということであれば、返還を免除するとか、具体的な施策があろうかと思うんですけども、そのこと、奨学金の充実が目に見えてくると、

岩見沢において子どもを通わせたい、子ども達も将来岩見沢で頑張りたいという気運、意欲が出てくるのかなと、そんな気がいたします。

そんなことで、教育のまち岩見沢を一層発展させるために、この点での施策、いかに重点化して、一層拡充できるような取り計らいをお願いしたいと思います。以上です。

○松野市長 子ども達の学習機会をしっかりと確保するという事は、やっぱり必要だと思うんですね。

それが、親の経済的な理由によって確保できないということは、やはり、まちづくり、社会的にも大変大きな課題だというふうに思いますし、私自身も認識しております。

今、大橋委員がおっしゃったように、子どもの貧困対策というのは、やはり大きなポイントになるものだというふうに思います。

それから、多様な学習機会の提供ということでは、光陵中学校さんでやってらっしゃるような事例というのは、私自身、非常に評価をしておりますし、また、そうは言いながらもあまり詳しいことは良くは分からなかったんですけども、改めて勉強させていただいているところなんですけれども。

特に、奨学資金、特に岩見沢市には岩見沢育英会という組織がございまして、これはかなりユニークな組織、民間団体なんですけれども、岩見沢市が一定の補助を出しつつ、育英会として奨学金を交付している。ただ、かなり前に決められた基準を運用している実態がありまして、当然のことながら給付型はない、それから金額も低い。むしろその貧困対策とか、子ども達の学習の機会を確保するという観点に立てば、それと今後のその拡充という視野に立てば、例えば給付型の奨学金を創設できるのかできないのか。

民間の寄附をいただいて、合わせての運用になりますけれども、いま財源のことも含めて、日本学生支援機構の方では、給付型は今回見送って、昨年も見送っているはずなんですけれども、そういう給付型も含めて、いま実は検討を進めているところございまして、総合戦略の整理と、予算での整理ということになってくるのかなというふうに思っています。

やはり、生活保護世帯とか、それからひとり親世帯とか、いろんな側面で、特に子どもの貧困対策ということでは、やはり進路に関係するところをしっかりと手厚くしていく必要もあるし、例えばひとり親世帯のところには、例えば居住環境ということとか、確か昨年は、ひとり親世帯のみなし控除か何かで、保育料の関係を手は入れているんですけども、そういった考え方をもう少し全面的に広げるということも必要になってくるんじゃないのかなと思います。

そういうことが結果的に、子どもさんの学習環境の拡充に繋がっていくのではないのかなと、いろいろ直接的な支援と、経済的な支援と相談体制と併せて、制度的にもやっぱりカバーするような支援を考えていきたいなというふうに思います。

ただ、例えば奨学金の場合ですと、どのような奨学金制度を設計するかによっては、財源の手当てが、予算の大小の問題も出てくるので、そこもしっかりやっていきたいなと思

います。

ですから、そういったところと、岩見沢市は教育支援センターを中心とした相談体制もある程度拡充してきているので、そういったところと組み合わせて、子ども達をカバーしていくという考え方が、前提に必要なだと思いますけれども。

それと併せて、産まれてから切れ目のない、切れ目のなく学校教育との連携を含めてですね、そういった視点も必要だと思いますけれども。

ただ、Sスタディは、改めて見て思ったんだけど、あっちの方と整理をかけなければならないのかな。健康福祉部の方でやっている、シルバー人材センターでやっている、あれは生活保護世帯の子どもさんを対象にしてやっているんですよ。あれはあれで予算の問題なんですかね。

○舛甚教育長 あれは縛りがある。

○松野市長 縛りがあるんですね。こっちの方が縛りが無いんですね。ただ、どうしても心理的に、出たいけどちょっとハードルが、と感じられるお子さんも、その家庭の状況によっては、あったりするかもしれませんからね、そこは慎重に判断しなければならない。

○舛甚教育長 狙っているところで、何とか要望できないかなと。

○松野市長 要望できると、むしろ誰でも行けるということが考えられる。

○舛甚教育長 そのようなことで、私の方から発言してよろしいですか。

○原田企画室長 はい、お願いいたします。

○舛甚教育長 すいません。子供の学力、あるいは一人ひとりの子どもということで出てきましたので、ここに、教育大綱の案にあるように、すごくきちんと網羅されていて、良いなというふうに感じております。

岩見沢の教育、今までは岩見沢で学んで良かった、住んで良かった等で、きていましたけれども、これからは教育が人口減対策のひとつになる、岩見沢で学びたいんだというような教育環境をつくっていききたいなと思っています。

そのためには、大きくは2つありまして、ひとつは、岩見沢で学ぶ子ども達一人ひとりを大事にするんだと。だから、教育支援センターを立ち上げて、相談体制をしっかり確立して、早期に子どもの支援ができる。それからもうひとつは、子どもの学力を保障してあげて、子どもが夢と希望を大きく広げて、そして進路の選択肢の拡大ができるのだと。

学力は生活のセイフティネットの役割も果たしますので、そういう部分では、しっかり子どもにも学力をつけさせてあげたい、そして子どもを守ってあげたいというふうになると、岩見沢で学ばせたいな、という親が来てくれればいいかなというふうに考えております。

そういうように積極的に動こうと思うし、積極的に情報を発信しながら、これから成果を上げていくような教育を進めていきたいなと考えております。

そんな中で、全くこちらの方の今の考え方では、Sスタディについては、これからもぜひ続けていきたいし、あれについては無料塾ですので、塾に行けない子ども、あるいはお金のちょっと大変な家庭でも行けるかなど。それから長期休業中には、無料の学習塾もこの他にやっていますので。市の方で、冬・夏と午前・午後でやっております。

またこれから、国際理解教育とも関わるんですけども、土曜日の無料英会話塾を何とか開催できないかと。無料で子ども達を集めて、ALTの活用、ちょっと難しいと思えますけれども、あるいは市のボランティアを募って、そういうようなことしたいと。そうすると、やがて岩見沢で障がい者アートなり、パラリンピックがあっても、子ども達が英語で迎えられるんです。そういう方々と、簡単でもいいから英語で話せるんだと。そういうことも含めて、せっかくALTもたくさんいますし、ボランティアの方もたくさんいますし、国際交流もしていますので、ポカテロと。そういう部分では何かこういうような夢のあるというか、そういうような子ども達に教育を、これからもしていきたいなというふうに考えていますので、お金もかかることもありますし、いろんなことも精査していかなければならないんですけども、本当にこのことだけでありませんけれども、安全・安心・笑顔で、岩見沢で教育を受けられるというような体制をこれからも執っていったらいいかなと思っています。

なお、学力については、本当にまだまだ不十分なところがありますけれども、比較するのは良くないんですけども、今、いろんな市町で、結構結果を公表するようになりましたが、小学校で言えば、大きな都市、例えば胆振の大きな都市、十勝の大きな都市、札幌などと比べても、岩見沢の小学校の方ができるんですね。まあ、中学校はちょっと落ちるところがあるんですけども、なかなか健闘している部分もあるので、先生方に、学校に、少し頑張ってもらいながら、さらに全国区で戦っていけるような子ども達、学校をこれからもつくってきたいなと思います。

○松野市長 ぜひお願いします。

○武蔵教育委員長 相対評価でなくて、絶対値を上げるべきですね。

○舛甚教育長 あくまでも全国を目指して。

○松野市長 一応、今日の段階で、教育大綱については、案ということで、一点豪華主義という訳ではなくて、やはりいろんな大きな課題がたくさんある中で、バランス良く、バランスに十分配慮した大綱としてまとめたいというのが、実は意図でもあるんです。

まあ、予算の議論は予算の議論で、これからですけどもね。

予算の方はなかなか、バランス良くとはならないかもしれないですけども。

○武蔵教育委員長 基本方針のところにある「笑顔で子育てできるまち」。子育てもできるし、子どもも笑顔でいられるという、それが岩見沢の魅力の一つとなる。

○松野市長 本当に、地方創生とか言う時に、岩見沢というのは、それぞれの場面で「選ばれるまち」にならないとダメなんですね。住みたいと「選ばれるまち」に。そういったことでは、教育の占めるウエイトというのは、僕はかなり大きいと思っているので、これまででも、実際に札幌にお住まいになっていて、岩見沢の方がずっと環境が良いからといって、わざわざ岩見沢に転入をして、引越しをしていらっしゃるという方のお話も聞いたことがあるんですけども、決して、そのマイナス面が出ていくという議論もあるけれども、逆にプラス面があるから選ばれて、住みたいという、本当に教育というのはウエイトが高いと思います。

○武蔵教育委員長 実際、守備範囲が広いですね。

○松野市長 だからよく言う、最近よく言われるのが、まちづくりでよく言われるんですけども、「人材」の材は材料の「材」でなくて、財宝の「財」だと、人財は宝なんだと、人は宝なんですよ。

要は、「まちづくりは人財づくり」と言っているのは、宝づくりなんです。教育も人財の「財」は「宝」なんです。

「岩見沢の未来の宝をつくる」、ちょっとムード歌謡すぎるかもしれませんが、そうだなと思います。

○原田企画室長 ほかにご意見等ございましたら、お願いいたします。

○秋山委員 岩見沢市としてこれだけの規模で、これだけのいろんな施設が、どんどん充実した中で、財政的には確かに厳しい部分があると思いますけれども、本当に今、市長も言われたとおり、人財といいますかね、人づくりというのが岩見沢のやはり「売り」になっていくので、これは、本当は仕事があって、そこに人たちが集まってきてというのが本当は一番理想、それにいろんな部分がついていくというのが理想なんでしょうけれども、逆に違う観点から、そういう「人財・人づくり」というのは、これからもっと、我々もそうですし、教育・文化全ての部分に対して、やはりこれから必要になってくるのではないかなど。なので、みんなで協力して、やっぱり一体となってやっていくしか、頑張っていくしかないのかなというふうに思いますので、リーダーシップをよろしくお願いいたします。

○松野市長 今日は、いろいろ有意義なお話を直接お聞きすることができたので、またこういう機会があったら良いと思います。総合教育会議という場でなくても、いろいろ意見交換したいと思います。

○原田企画室長 それでは、本日承りましたご意見・ご趣旨を踏まえまして、本日お示し

をした教育大綱（案）につきましては、教育委員会事務局さんとも調整をしまして、一定の文言等の整理をした上で、大綱は首長であります岩見沢市長が定めるものでございます。そういった調整を経たうえで、成案として大綱を策定するという運びで取り進めさせていただいてよろしいでしょうか。

（「はい。お願いします。」と発言する者あり）

○原田企画室長 なお今日のご意見の中で出ました、具体的な事業につきましては、この大綱につきましては、方針から施策の方向性までということで、プログラムまでということで、具体的な事業プロジェクトにつきましては、各年度の予算等の中で議論をし、反映するというところで、お願いをしたいと考えてございます。

では、議事の方にはございませんが、特にその他ということで、委員の皆様から何かございましたら、ご発言お願いいたします。

○武蔵教育委員長 特にないんですけど、いま市長が言われたように、やっぱり教育委員会と市長との考え方を合致させるということではないですけども、お互い何を考えているのかというのをしっかり理解した中で進めていかないと、おかしなことになりますので、ぜひ、こういう対話の機会を設けていただければと思います。

○松野市長 こちらもよろしくお願いいたします。

○武蔵教育委員長 ありがとうございます。

○原田企画室長 承知いたしました。

それでは、本日予定しておりました議事につきましては、以上で終了をいたしました。

以上をもちまして、第2回岩見沢市総合教育会議を閉会いたしたいと思っております。

本日はありがとうございました。

午前10時30分 閉会